

V 試験研究発表題名

平成 29 年度 試験研究発表題名一覧

番号. 著者名. タイトル. 誌名, 掲載号: ページ

1. NAKAJIMA Tohru (中島徹・東京大学)、SHIRAISHI Norihiko (白石則彦・東京大学)、KANOMATA Hidesato (鹿又秀聡)、MATSUMOTO Mitsuo (松本光朗). Development and analysis of an opportunity cost simulation accounting for the spatial distributions of local forest management (地域森林経営の空間分布を考慮した機会費用のシミュレーション開発と解析). *Annals of Forest Research*, 60 (1) :145-159
2. 松本光朗. REDD+ の仕組み. 写真測量とリモートセンシング, 56 (5) :177-180
3. 中島徹 (東京大学)、白石則彦 (東京大学)、龍原哲 (東京大学)、鹿又秀聡、広嶋卓也 (東京大学)、光田靖 (宮崎大学)、岡勝 (鹿児島大学)、松本光朗. 都道府県別伐出可能量に基づく国レベルのバイオマス供給量の評価. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集, 101
4. MITSUDA Yasushi (光田靖・宮崎大学)、HOSODA Kazuo (細田和男)、IEHARA Toshiro (家原敏郎). Comparison of growth responses to climatic conditions of sugi (*Cryptomeria japonica*) and hinoki (*Chamaecyparis obtusa*) using a carbon balance-based growth model (炭素バランスベース成長モデルによるスギ・ヒノキの気候条件への応答の比較). *FORMATH*, 16:32-42
5. 家原敏郎. デジタル空中写真による森林資源の把握. 森林総合研究所関西支所研究情報, 126:1
6. 家原敏郎. 広葉樹利用セミナー「東近江地域での広葉樹二次林の資源利用と更新のための郷土樹種種苗の育成」に参加して. 広葉樹の利用と森林再生を考える - 中山間地での広葉樹林の取り扱いについて -:42
7. 鳥居厚志. 竹の秋. 森林総合研究所関西支所研究情報, 124:4
8. 鳥居厚志. 紀伊半島の林業. ペドロジスト, 61 (1) :37-41
9. 鳥居厚志. 竹の花. 森林総合研究所関西支所研究情報, 125:4
10. 鳥居厚志. 放置竹林の拡大とその対策. 植調, 51 (8) :10-14
11. 鳥居厚志. 竹と笹. 森林総合研究所関西支所研究情報, 126:4
12. 鳥居厚志. 京都の街角で見られる竹の伝統的利用. 山林, 1603:12-21
13. 鳥居厚志. 竹の駆除は容易じゃない?. 竹林景観ネットワーク第 21 回研究集会講演要旨集, 21:3
14. 鳥居厚志. はじめに、竹の生態特性 駆除が進まない背景. 広がる竹林をどうしよう? という時に、2-3
15. 鳥居厚志. いろいろな竹. 森林総合研究所関西支所研究情報, 127:4
16. 鳥居厚志. 竹を駆除するポイント. 森林総合研究所関西支所研究情報, 127:1
17. 横田康裕、天野智将、山本伸幸、垂水亜紀、志賀薫. 発電用木材の安定供給体制の構築・運営における要点. 林業経済学会 2017 秋季大会、B9
18. 垂水亜紀. 薪から広葉樹の利用を考える. 広葉樹の利用と森林再生を考える - 中山間地での広葉樹林の取り扱いについて -:45
19. 垂水亜紀、山本伸幸. 滋賀県における薪生産・販売業者の現状と課題. 森林応用研究, 27 (1) :21-25
20. 横田康裕、山本伸幸、垂水亜紀. 兵庫県における木質バイオマス発電原燃料の安定供給の取り組み. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集, 100

21. 垂水重紀. 近畿地方における広葉樹薪の流通. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集、202
22. 細田育広、谷誠 (人間環境大学). 森林に降る雨水が溪流にいたる道程は意外と深い. 森林総合研究所平成 29 年版研究成果選集、7
23. 細田育広. 基盤事業：森林水文モニタリングー竜ノ口山森林理水試験地ー. 森林総合研究所関西支所年報、58:37
24. 細田育広. 月流出水量の平年比を顕著に下げる降水条件. 129 回日本森林学会大会学術講演集、163
25. 岡本透. 古地図から読み解く百年で移り変わる山の風景. 山の農学ー「山の日」から考える (日本農学会編、155pp)、19-36
26. KOBAYASHI Masahiro (小林政広)、YOSHINAGA Shuichiro (吉永秀一郎)、ITOH Yuko (伊藤優子)、SHINOMIYA Yoshiki (篠宮佳樹)、AIZAWA Shuhei (相澤州平)、OKAMOTO Toru (岡本透)、TSURITA Tatsuya (釣田竜也). Trends in precipitation and stream water chemistry in a forested watershed in the Kanto region, Japan (関東地方の森林流域における降水と渓流水の水質の経年変化). 日本地球惑星科学連合 2017 年大会予稿集、AHW32-03
27. 伊藤優子、岡本透、浅井和由 ((株)地球科学研究所)、藤原洋一 (石川県大)、高瀬恵次 (石川県大). Effects of transboundary air pollution on water chemistry around the source area of Hakusan-Tedori River (白山 - 手取川流域の源流域における越境大気汚染による水質への影響). 日本地球惑星科学連合 2017 年大会講演要旨集、AHW32-P01
28. 伊藤優子、岡本透、藤原洋一 (石川県大)、高瀬恵次 (石川県大)、藤原洋一 (石川県大)、川崎萌子 (石川県森林総合センター)、浅井和由 ((株)地球科学研究所). 白山手取川源流域における越境大気汚染物質の流入および流出水への影響評価. 平成 29 年度河川基金研究成果発表会、A-12
29. 志知幸治、池田重人、岡本透. 山形県北部地域における完新世中期以降のスギの変遷. 日本花粉学会大会講演要旨集、58:49
30. 岡本透. 歴史資料から知る過去の林野利用. 季刊森林総研、39:2-3
31. 石塚成宏、金子真司、鶴田健二 (森林総研 PD)、橋本昌司、相澤州平、橋本徹、伊藤江利子、篠宮佳樹、野口享太郎、森下智陽、小野賢二、岡本透、酒井寿夫、鳥山淳平、酒井佳美、稲垣昌宏、片柳薫子 (農研機構)、白戸康人 (農研機構)、小原洋 (農研機構)、神山和則 (農研機構)、神田隆志 (国際農研セ)、井上美那 (農研機構)、草場敬 (農研機構). 農地から森林への土地利用変化が土壌炭素量に与える影響ー観測結果ー. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集、P2-187
32. 池田重人、志知幸治、岡本透. 花粉分析と微粒炭分析に基づく鳥海山麓天然スギ林の 1000 年前以降の衰退過程. 日本森林学会大会学術講演集、129:P2-185
33. 岡本透、齋藤智之、星野大介. 中部地方におけるスズタケの 2017 年一斉開花の範囲. 日本森林学会大会学術講演集、129:279 (P2-174)
34. 齋藤智之、中川弥智子 (名古屋大学)、星野大介、酒井武、岡本透、依田浩輝 (名古屋大学)、栗田悟 (愛知県)、鈴木智晴 (林野庁中部森林管理局)、野口和幸 (林野庁中部森林管理局). 中部地方で一斉開花したスズタケの繁殖特性. 日本森林学会大会講演要旨集、129:269
35. 稲垣善之、宮本和樹、奥田史郎、野口麻穂子、伊藤武治. 高知県の地形の異なるヒノキ林における樹冠葉量の推定. 地球惑星科学連合大会 2017 年大会、MIS19-16

36. INAGAKI Yoshiyuki (稲垣善之)、MIYAMOTO Kazuki (宮本和樹)、OKUDA Shiro (奥田史郎)、NOGUUCHI Mahoko (野口麻穂子)、ITOU Takeharu (伊藤武治). Leaf life span and mean residence time of nitrogen in hinoki cypress forests in Japan (日本のヒノキ林における葉寿命と窒素滞留時間). BIOGEOGRAPHICAL ABSTRACTS, 2017:142
37. 奥田史郎. 関西地域の広葉樹林へのアプローチ. 広葉樹の利用と森林利用を考える～中山間地での広葉樹林の取り扱いについて～, p4
38. 奥田史郎. 2度や3度の伐採では新竹の発生は無くならない. 広がる竹林をどうしよう? という時に 放置竹林の把握と効率的な駆除技術, p8-9
39. 齋藤隆実 (森林総研 PD)、飛田博順、矢崎健一、小笠真由美、奥田史郎、山下直子、宇都木玄. スギの葉の浸透圧とその変化. 第 65 回日本生態学会大会講演要旨集、P3-083
40. 伊藤武治、酒井敦、野口麻穂子、奥田史郎. 高知県の放置竹林における帯状皆伐後の植生の変化. 第 129 回森林学会大会学術講演集、p.219
41. 奥田史郎、上森真広 (大阪府環農水研). モウソウチク放置竹林伐採後における再生タケの刈り取り処理と再生量の変化. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集、P2-119
42. 奥田史郎. 放置竹林を伐採して樹種転換－再生する竹の処理－. 森林総合研究所関西支所研究情報、127:2-3
43. 高橋和規. 西日本におけるコブシ衰退の現状と要因. 応用森林学会研究発表要旨集、68:16
44. 太田和秀 (秋田県立大学)、野口麻穂子、松下通也、八木橋勉、齋藤智之、太田敬之、柴田銃江、星野大介、高橋和規、大住克博 (鳥取大学)、正木隆、鈴木和次郎 (元森林総研)、佐藤孝 (秋田県立大学)、星崎和彦 (秋田県立大学). 結実の豊凶は冷温帯落葉樹混交林の年間リター供給量をどう変化させるか. 日本森林学会大会学術講演集、129:P1-267
45. 板橋朋洋 (秋田県大)、松下通也、森英樹 (筑波大)、野口麻穂子、直江将司、中川弥智子 (名古屋大)、岡田美憲 (名古屋大)、太田和秀 (秋田県大)、太田敬之、齋藤哲、齋藤智之、高橋和規、上山芝穂 (秋田県大)、八木橋勉、星崎和彦 (秋田県大). 溪畔林における水平・垂直方向のニッチ分割：大規模稚樹群集データの解析. 日本森林学会大会、129:P1-120
46. 正木隆、小黒芳生 (森林総研 PD)、山下直子、大谷達也、宇都木玄. Reforestation following harvesting of conifer plantations in Japan: Current issues from silvicultural and ecological perspectives (日本における針葉樹人工林皆伐後の造林：造林学・生態学からみた諸問題). Reforesta、3:125-142
47. 山下直子. 里山から中山間地へ 広葉樹の利用と再生に向けて. 広葉樹の利用と森林再生を考える - 中山間地での広葉樹林の取り扱いについて - : 5-6.
48. 山下直子. 広葉樹林を育てる「はじめの一步」. 広葉樹の利用と森林再生を考える - 中山間地での広葉樹林の取り扱いについて - : 43-44
49. 山下直子. 中山間地における広葉樹資源の循環的利用と森林再生－東近江市の里山から考える－. 琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望 (晃洋書房、320 頁)、p210-221.
50. 山下直子、奥田史郎、中尾勝洋、藤井栄 (徳島県立農林水産総合技術支援センター)、渡邊仁志 (岐阜県森林研究所)、飛田博順、宇都木玄、梶本卓也. スギ・ヒノキコンテナ苗における主軸切断の影響－萌芽枝の成長と樹形変化－. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集 p258.
51. 諏訪鍊平. 里山林の高伐りによるシカ食害の防止効果. 森林総合研究所関西支所研究情報、124:2-3
52. 諏訪鍊平、田中真哉、奥田史郎、家原敏郎、細田和男. 亜寒帯から亜熱帯を含む日本の広葉樹バイオマス推定のための相対成長式. 第 27 回日本熱帯生態学会年次大会、P01

53. 諏訪鍊平. ヒノキ再造林における低コスト林業技術の開発現場からの報告. 森林整備センター公開シンポジウム 2017、4-5
54. 大谷達也、Adriano Lima (国立アマゾン研究所)、諏訪鍊平、大橋伸太、梶本卓也、Niro Higuchi (国立アマゾン研究所). アマゾン熱帯雨林における択伐後のバイオマス回復過程. 第 65 回日本生態学会大会要旨集、65:P2-262
55. 高橋裕史、諏訪鍊平、中尾勝洋、山下直子、奥田史郎. ニホンジカによる萌芽食害は 高伐りによって軽減できるか. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集、106 (講演番号 T3-3)
56. 諏訪鍊平、田中真哉、奥田史郎、家原敏郎、藤原健、細田和男. 日本の広葉樹バイオマス推定のための相対成長式. 日本森林学会大会講演要旨集、129:281
57. KORAI Hideaki (高麗秀昭)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、WATANABE Ken (渡辺憲)、ISHIGOOKA Yasushi (石郷岡康史・農研機構). Effects of climate change on reduction of internal bond strength of particleboard subjected to various climatic conditions in Japan (気候変動が日本の様々な気象条件下に屋外暴露したパーティクルボードの剥離強さに与える影響). Journal of Wood Science、63 (3) :253-262
58. NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学)、TSUYAMA Ikutarou (津山幾太郎)、Lin C-TNCU (信義大)、Chiou C (台北大)、Chen T (宜蘭大)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉). Climate change impact on the potential habitats of dominant evergreen broad-leaved tree species in the Taiwan-Japan archipelago. (台湾-日本列島の常緑広葉樹林の優占種の潜在生育域における気候変動影響について). IBC2017; ShenZhen China、T3-02-4
59. TSUYAMA Ikutarou (津山幾太郎)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、HORIKAWA Masahiro (堀川真弘・トヨタ自動車)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学). How will subalpine conifer distributions be affected by climate change in Japan? (日本の針葉樹は気候変動でどのように分布が影響を受けるのか?). IBC2017; China、T1-05-5
60. HIRATA Akiko (平田晶子・森林総研非常勤職員)、NAKAMURA Katsunori (中村克典)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学)、OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研 PD)、TAKANO (TAKENAKA) Kohei (高野 (竹中) 宏平・長野県環境保全研究所)、TAKEUCHI Wataru (竹内渉・東京大学生産技術研究所)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉). Potential distributions of pine wilt disease under future climate change scenarios. (マツ材線虫病の温暖化影響シナリオ下での潜在分布). PLoS ONE、12 (8) :e0182837
61. NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TSUYAMA Ikutarou (津山幾太郎)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学). Assessing the limits of protected areas relocations as climate change adaptive options for conserving Japanese tree species under three RCPs. (3つの RCP シナリオ下での日本の樹木種の保全のための気候変動適応策としての保護区の移動の限界を探る). 2017 ESA Annual Meeting; Portland OR USA、PS68-53
62. MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、YAGIHASHI Tsutomu (八木橋勉)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TSUYAMA Ikutarou (津山幾太郎)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学). Climate change impact on *Fagus crenata* forests and adaptation measures. (ブナ林への温暖化影響と適応策の手法). 北京大学公開セミナー、2
63. 堀田昌伸 (長野県環境保全研究所)、高野宏平 (環境保全研究所)、津山幾太郎、比嘉基紀 (高知大)、尾関雅章 (環境保全研究所)、中尾勝洋、松井哲哉、畑中健一郎 (長野県自然保護課). 登山者情報をもとにしたライチョウの生息状況把握の有効性. 日本鳥学会 2017 年度大会、P068

64. 松井哲哉、中尾勝洋、高野（竹中）宏平（長野県環境保全研）、尾関雅章（長野県環境保全研）、堀田昌伸（長野県環境保全研）、須賀丈（長野県環境保全研）、浜田崇（長野県環境保全研）、栗林正俊（長野県環境保全研）、黒江美紗子（長野県環境保全研）、大塚孝一（長野県環境保全研）、松橋彩衣子（森林総研 PD）、津山幾太郎。長野県の生態系影響・適応策評価技術開発。植生学会第 22 回大会講演要旨集、72
65. 高麗秀昭、渡辺憲、中尾勝洋、林知行（秋田県立大学）。一般化線形モデルによる屋外暴露したパーティクルボードの曲げ強さの解析。木材学会誌、63（6）:277-281
66. MATSUI Tetsuya（松井哲哉）、NAKAO Katsuhiko（中尾勝洋）、HIGA Motoki（比嘉基紀・高知大学）、TSUYAMA Ikutaro（津山幾太郎）、KOMINAMI Yuji（小南裕志）、YAGIHASHI Tsutomu（八木橋勉）、KOIDE Dai（小出大・森林総研 PD）、TANAKA Nobuyuki（田中信行・東京農大）。Potential impact of climate change on canopy tree species composition of cool-temperate forests in Japan using a multivariate classification tree model（多変量分類樹モデルを用いた日本の冷温帯林の種構成への温暖化影響評価）。Ecological Research、DOI: 10.1007/s11284-018-1576-2
67. 松橋彩衣子（森林総研 PD）、平田晶子（森林総研非常勤職員）、秋庭満輝、中村克典、高野（竹中）宏平（長野県環境保全研究所）、小黒芳生（森林総研 PD）、中尾勝洋、松井哲哉。外来病マツ枯れの危険域を推定する：種分布モデルを用いた予測と気候変動の影響評価。第 65 回日本生態学会大会講演要旨集、T07-4
68. 松橋彩衣子（森林総研 PD）、平田晶子（森林総研非常勤職員）、秋庭満輝、中村克典、高野（竹中）宏平（長野県環境保全研究所）、小黒芳生（森林総研 PD）、中尾勝洋、松井哲哉。種分布モデルを用いた国内におけるマツ枯れ潜在発生域の予測。第 129 回日本森林学会大会講演要旨集、P2-212
69. 高野（竹中）宏平（長野県環境保全研究所）、中尾勝洋、尾関雅章（長野県環境保全研究所）、堀田昌伸（長野県環境保全研究所）、須賀丈（長野県環境保全研究所）、松井哲哉。日本の気候変動適応に向けた Velocity of climate change の解析。第 65 回日本生態学会大会講演要旨集、P2-266
70. 堀田昌伸（長野県環境保全研）、高野宏平（長野県環境保全研）、津山幾太郎、比嘉基紀（高知大）、尾関雅章（長野県環境保全研）、中尾勝洋、松井哲哉、竹内祥生（信州大）、畑中健一郎（長野県自然保護課）。山小屋や登山者によるライチョウの生息状況把握。第 65 回日本生態学会大会講演要旨集、P2-284
71. 内山憲太郎、中尾勝洋、上野真義、木村恵、津村義彦（筑波大学）。ゲノムワイド SNP マーカーを用いたスギの分布変遷の推定。第 129 回日本森林学会大会学術講演集、P2-131
72. 津村義彦（筑波大学）、木村恵、中尾勝洋、内山憲太郎、伊原徳子、Yafeng Wen（中南林業科技大学）、Tong Zaikang（浙江農林大学）、Han Wenjun（中南林業科技大学）。氷期が強く影響した日本と中国に分布するスギの遺伝的分化。第 129 回日本森林学会大会、F8
73. Yun, Jong-Hak（National Institute of Ecology）、NAKAO Katsuhiko（中尾勝洋）、TSUYAMA Ikutaro（津山幾太郎）、MATSUI Tetsuya（松井哲哉）、Park Chan-Ho（National Institute of Biological Resources）、Lee Byoung-Yoon（National Institute of Biological Resources, Korea）、TANAKA Nobuyuki（田中信行・東京農業大学）。Vulnerability of subalpine fir species to climate change: using species distribution modeling to assess the future efficiency of current protected areas in the Korean Peninsula（気候変動に対するモミの脆弱性：種分布モデルを用いた韓半島における現在の保護区の将来への有効性）。Ecological Research、DOI 10.1007/s11284-018-1581-5
74. 中尾勝洋、藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）、内村慶彦（鹿児島県森林技術総合センター）、野口麻穂子、諏訪諒平、山下直子、奥田史郎。下刈り省力化に向けた UAV/ドローン活用の可能性と限界。第 129 回日本森林学会大会学術講演集、106（講演番号 S1-10）

75. IIDA Shin'ichi (飯田真一)、TAKEUCHI Shinichi (竹内真一・南九州大学)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、SHINOHARA Yoshinori (篠原慶規・宮崎大学). Artificial sap flow measured by heat field deformation and heat ratio methods in the laboratory (Heat Field Deformation 法および Heat Ratio 法で検出された人工の樹液流). JpGU-AGU Joint Meeting 2017、ACG47-P06
76. 松本有貴 (大阪府立大)、植山雅仁 (大阪府立大)、義川滉太 (大阪府立大)、小南裕志. 傾度法を用いた温帯二次林におけるメタン交換量の連続測定. JpGU-AGU Joint Meeting 2017、AGC47-03
77. 松井哲哉、齊藤哲、玉井幸治、平田晶子 (森林総研非常勤職員)、上條隆志 (筑波大)、本江大樹 (筑波大)、設楽拓人 (筑波大)、OYNSUVD Sumya (モンゴル生命科学大学)、JAMSRAN Undarmaa (モンゴル生命科学大学)、小南裕志、中園悦子 (東大生産技術研)、竹内渉 (東大生産技術研). モンゴル北部の針葉樹林帯における林野火災前後の林冠木の種組成およびバイオマス量の変化推定. 第 7 回関東森林学会大会講演要旨集、24:29
78. MATSUMOTO Yuki (松本有貴・大阪府大)、UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪府大)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、ENDO Ryosuke (遠藤良介・大阪府大). Methane production potential and microbial community structure for different forest soils (異なった森林土壌における微生物群集組成とメタン放出のポテンシャル量の関係). Proceeding of AGU fall meeting 2017、GC21A-0929
79. SUKEYASU Takayuki (祐安孝幸・大阪府立大)、UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪府大)、ANDO Tomoya (安藤智也・大阪府立大)、KOSUGI Yoshiko (小杉緑子・京都大)、KOMINAMI Yuji (小南裕志). Urban surface energy fluxes based on remotely-sensed data and micrometeorological measurements over the Kansai area, Japan (日本の関西地方におけるリモートセンシングと微気象的手法による表面熱収支の推定). Proceeding of AGU fall meeting 2017、GC21G-1006
80. MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、SAITO Satoshi (齊藤哲)、TAMAI Koji (玉井幸治)、HIRATA Akiko (平田晶子・森林総研非常勤職員)、KAMIJO Takashi (上條隆志・筑波大学生命環境系)、MOTOE Daiki (本江大樹・筑波大学生命環境系)、SHITARA Takuto (設楽拓人・筑波大学生命環境系)、JAMSRAN Undarmaa (モンゴル生命科学大学)、OYNSUVD Sumya (モンゴル生命科学大学)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、NAKAZONO Etsuko (中園悦子・東京大学生産技術研究所)、TAKEUCHI Wataru (竹内渉・東京大学生産技術研究所). Comparison of forest biomass before- and after- wild forest fires in the conifer forest in northern Mongolia (モンゴル北部針葉樹林における山火事前後のバイオマス比較). 関東森林研究、69 (1) :59-62
81. 飯田真一、竹内真一 (南九州大学)、小南裕志、篠原慶規 (宮崎大学)、野口正二. スギを対象とした複数の樹液流速測定法の検定. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集、P1-176
82. 松本有貴 (大阪府大)、植山雅仁 (大阪府大)、岡村幹太 (大阪府大)、小南裕志、遠藤良輔 (大阪府大)、徳本勇人 (大阪府大)、平野高司 (北大)、高木健太郎 (北大)、小南靖弘 (農研機構)、高橋善幸 (国環研)、岩田拓記 (信州大)、原藺芳信 (大阪府大). 微生物動態から群落フラックスまでを考慮した陸域生態系におけるメタン交換量のマルチスケール解析. 日本農業気象学会 75 周年記念大会講演要旨集、OS-J2-6
83. 祐安孝幸 (大阪府大)、植山雅仁 (大阪府大)、小杉緑子 (京都大学)、小南裕志. 人工衛星データを用いた近畿圏における森林と都市の地表面熱収支の比較. 日本農業気象学会 75 周年記念大会講演要旨集、J9
84. 甘田岳 (京都大学)、小野田雄介 (京都大学)、小南裕志、北山兼弘 (京都大学). ハワイフトモモにおける葉トラライコームの適応的意義 Part4 - 光合成における葉面保水効果 -. 第 65 回日本生態学会講演要旨集、P3-070
85. 吉村謙一 (山形大)、小南裕志、安宅未央子 (学振 PD). 全天空写真の高密度撮影による林冠構造の把握とその季節変動. 第 129 回日本森林学会講演要旨集、P2-170
86. 小南裕志. 京都府南部の広葉樹林タワーフラックスサイトにおける群落炭素循環. 林野庁近畿中国森林管理局平成 29 年度 森林・林業交流研究発表会集録、164-170

87. TANIKAWA Toko (谷川東子)、ITO Yoshiaki (伊藤嘉昭・京都大)、FUKUSHIMA Sei (福島整・物質材料研)、YAMASHITA Michiru (山下満・兵庫県立工業技術センター)、SUGIYAMA Akifumi (杉山暁史・京都大)、MIZZOGUCHI Takeo (溝口岳男)、OKAMOTO Toru (岡本透)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Calcium is cycled tightly in *Cryptomeria japonica* stands on soils with low acid buffering capacity (酸緩衝能の低い土壌に育つスギ林では、タイトなカルシウム循環が行われている). *Forest Ecology and Management*, 399:64-73
88. HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大)、TODO Chikage (藤堂千景・兵庫県森林セ)、YAMASE Keitarou (山瀬敬太郎・兵庫県森林セ)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大)、OHASHI Mizue (大橋瑞江・兵庫県立大)、DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、WADA Ryusei (和田竜征・名古屋大)、IKENO Hidetoshi (池野英利・兵庫県立大). Contrasting root systems of *Pinus thunbergii* in soils with different groundwater levels in a coastal forest (海岸林における異なる地下水位をもつ土壌に生育するマツの根系). 7th International Symposium on Physiological Processes in Roots of Woody Plants (Woody Root 7)、24
89. OHASHI Mizue (大橋瑞江・兵庫県立大)、IKENO Hidetoshi (池野英利・兵庫県立大)、SEKIHARA Kotaro (関原光太郎・名古屋大学)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大)、YAMASE Keitarou (山瀬敬太郎・兵庫県森林セ)、TODO Chikage (藤堂千景・兵庫県森林セ)、TOMITA Takahiro (富田隆弘・兵庫県立大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Reconstruction of root systems of *Cryptomeria japonica* using coordinate points and root diameters (スギの座標と直径を用いた根系復元). 7th International Symposium on Physiological Processes in Roots of Woody Plants (Woody Root 7)、62
90. WADA Ryusei (和田竜征・名古屋大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Morphological traits on first to fourth branch orders in intact fine root systems at four *Cryptomeria japonica* stands (スギ4林分における細根系の1次から4次根までの形態特性). 7th International Symposium on Physiological Processes in Roots of Woody Plants (Woody Root 7)、72
91. DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、WADA Ryusei (和田竜征・名古屋大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Variation in morphological traits of branch orders within whole intact fine root systems up to 2 mm in *Chamaecyparis obtusa* (ヒノキの直径2mm以下全体の細根系における次数別形態特性の変動性). 7th International Symposium on Physiological Processes in Roots of Woody Plants (Woody Root 7)、97
92. TANIKAWA Toko (谷川東子)、MAIE Nagamitsu (眞家永光・北里大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大)、MIYATANI Kouhei (宮谷紘平・名古屋大)、DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、Lijuan Sun (孫麗娟・京都大)、MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大)、MIZOGUCHI Takeo (溝口岳男)、FUJII Saori (藤井佐織・アムステルダム自由大学). Temporal changes in nutrient elements leached from leaf and root litters during decomposition process - Carbon, Phosphorous, Nitrogen- (葉と根の分解過程で溶脱される栄養元素の時間変動 - 炭素、リン、窒素 -). 7th International Symposium on Physiological Processes in Roots of Woody Plants (Woody Root 7)、108
93. 平野恭弘 (名古屋大)、山瀬敬太郎 (兵庫県農林技セ)、谷川東子、藤堂千景 (兵庫県農林技セ)、檀浦正子 (京都大)、大橋瑞江 (兵庫県立大)、池野英利 (兵庫県立大). スギ林における地中レーダ探査画像の再現性についての検討. 第46回根研究集会、8
94. 土居龍成 (名古屋大)、谷川東子、和田竜征 (名古屋大)、平野恭弘 (名古屋大). 次数別比根長 SRL と土壌特性から見るヒノキ細根機能の分類点の検討. 第46回根研究集会、7

95. 和田竜征 (名古屋大)、谷川東子、土居龍成 (名古屋大)、平野恭弘 (名古屋大). 土壤炭素・窒素濃度と細根次数形態の関連性 - 関西中部地方におけるスギ林の事例 -. 第 46 回根研究集会、8
96. NOGUCHI Kyotaro (野口享太郎)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、INAGAKI Yoshiyuki (稲垣善之)、ISHIZUKA Shigehiro (石塚成宏). Calculation procedures to estimate fine root production rates in forests using two-dimensional fine root data obtained by the net sheet method (ネットシート法により得られた二次元細根データを利用して森林における細根生産量を推定するための計算方法). *Tree Physiology*, 37 (6) :697-705
97. NOGUCHI Kyotaro (野口享太郎)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、INAGAKI Yoshiyuki (稲垣善之)、ISHIZUKA Shigehiro (石塚成宏). A new approach to estimate fine root production rates in forests using the net sheet method (ネットシート法による森林の細根生産量を推定するための新たなアプローチ). 7th International Symposium on Physiological Processes in Roots of Woody Plants, Abstract book, p.76
98. DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、MIYATANI Kouhei (宮谷紘平・名古屋大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Intraspecific variation in morphological traits of root branch orders in *Chamaecyparis obtusa* (ヒノキ細根の次数特性に見る種内変動). *Plant and Soil*, 416:503-513
99. KAWAI Syousei (河合将生・三重大院生資)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、UESUGI Tenshi (上杉天志)、MATSUO Naoko (松尾奈緒子・三重大院生資)、SELOSSE MA. (フランス自然史博物館)、MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大院生資). The effect of nutritional limitation by fungicide treatment on growth of mixotrophic *Pyrola japonica*. (混合栄養性植物 *Pyrola japonica* の生育に及ぼす殺菌剤処理による栄養制限の影響). 9th International Conference on Mycorrhiza (ICOM9)、309
100. HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大学大学院環境学研究科)、TOKORO Chie (所千恵・名古屋大学大学院環境学研究科)、TODO Chikage (藤堂千景・兵庫県森林セ)、YAMASE Keitaro (山瀬敬太郎・兵庫県森林セ)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、OHASHI Mizue (大橋瑞江・兵庫県立大)、MIYATANI Kouhei (宮谷紘平・名古屋大)、DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大)、IKENO Hidetoshi (池野英利・兵庫県立大). Estimates of roots using ground penetrating radar and root anchorage in a coastal *Pinus thunbergii* forest. (海岸マツ林における地中レーダによる根の推定と垂下根の形状). IUFRO 125th anniversary congress 2017、714
101. 谷川東子、藤井佐織 (アムステルダム自由大学)、孫麗娟 (京大院)、平野恭弘 (名大院)、宮谷紘平 (名大院)、土居龍成 (名大院)、松田陽介 (三重大院)、溝口岳男、眞家永光 (北里大). スギ・ヒノキの葉と細根の分解過程で溶出する溶存有機物：蛍光成分組成に着目して. 日本土壤肥料学会講演要旨集、63:P1-1-8
102. 北上雄大 (三重大院生資)、谷川東子、松田陽介 (三重大院生資). 中日本のスギ人工林に生息する線虫の分類属性と生態的特徴. 第 7 回中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、312
103. 喜多見平 (三重大院生資)、谷川東子、松田陽介 (三重大院生資). 異なる土壤環境に生育するスギの細根で検出されたアーバスキュラー菌根菌と Dark Septate endophyte の定着. 第 7 回中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、311
104. 和田竜征 (名古屋大学大学院環境学研究科)、谷川東子、土居龍成 (名古屋大学大学院環境学研究科)、平野恭弘 (名古屋大学大学院環境学研究科). スギ林における土壤無機態窒素濃度と細根次数形態. 第 7 回中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、203
105. 土居龍成 (名古屋大学環境学研究科)、谷川東子、和田竜征 (名古屋大学環境学研究科)、平野恭弘 (名古屋大学環境学研究科). 根端から直径 2mm に至るまでの細根系に着目したヒノキ次数根形態特性. 第 46 回根研究集会プログラム・要旨集、9

106. 和田竜征 (名古屋大学大学院環境学研究科)、谷川東子、土居龍成 (名古屋大学大学院環境学研究科)、平野恭弘 (名古屋大学大学院環境学研究科). 土壤環境の異なるスギ林における細根次数形態特性. 第46回根研究集会プログラム・要旨集、16
107. 谷川東子. スギが土をはぐくむ力は土しだい. 森林と林業、2017年11月号:14-15
108. TANIKAWA Toko (谷川東子)、HASHIMOTO Yohey (橋本洋平・東京農工大)、YAMAGUCHI Noriko (山口紀子・農研機構)、TAKAHASHI Masamichi (高橋正通・国際緑化推進センター)、YOSHINAGA Shuichiro (吉永秀一郎). Sulfur accumulation rates in volcanic soils of eastern Japan over the last millennium based on tephrochronology (テフロクロノロジーに基づいて推定された、東日本の火山灰土におけるこの1000年間のイオウの蓄積速度). *Geoderma*, 315:111-119
109. MIYATANI Kouhei (宮谷紘平・名古屋大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、MAKITA Naoki (牧田直樹・信州大学)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Relationships between specific root length and respiration rate of fine roots across stands and seasons in *Chamaecyparis obtusa*. (ヒノキ林における比根長と根呼吸速度の複数林分と季節をとおした関係). *Plant and Soil*, 423:215-227
110. 谷川東子. スギが土をはぐくむ力は土しだい. 大気-森林-土壌循環ワークショップ、発表番号5番
111. 牧田直樹 (信州大学)、杉山暁史 (京都大学)、鈴木史郎 (京都大学)、谷川東子. 根滲出物の樹種特異性の解明～野外測定での定量化を目指して～. 生存圏ミッションシンポジウム
112. 谷川東子、伊藤嘉昭 (京都大学)、福島整 ((株)神戸工業試験場)、山下満 (兵庫県立工業技術センター)、矢崎一史 (京都大学)、杉山暁史 (京都大学)、平野恭弘 (名古屋大学). 森林生態系を循環する土壌カルシウムの深さは、土壌酸性度傾度に依存するか?. 生存圏ミッションシンポジウム
113. 江川健太 (兵庫県立大)、富田隆弘 (兵庫県立大)、大橋瑞江 (兵庫県立大)、藤堂千景 (兵庫県森林セ)、山瀬敬太郎 (兵庫県森林セ)、谷川東子、檀浦正子 (京都大)、平野恭弘 (名古屋大)、池野英利 (兵庫県立大). 鳥瞰写真から得られた水平根情報に基づく樹木根系の再構築. 第129回日本森林学会大会、95:188
114. 土居龍成 (名古屋大)、谷川東子、和田竜征 (名古屋大)、平野恭弘 (名古屋大). ヒノキ7林分の末端次数根の直径と長さの変動. 第129回日本森林学会大会、95:112
115. 谷河滯 (兵庫県立大)、池野英利 (兵庫県立大)、平野恭弘 (名古屋大)、藤堂千景 (兵庫県森林セ)、山瀬敬太郎 (兵庫県森林セ)、谷川東子、檀浦正子 (京都大)、大橋瑞江 (兵庫県立大). 3Dプリンタを用いた模型実験による樹木根の形状と引き倒し抵抗力との関係. 第129回日本森林学会大会、95:112
116. 藤堂千景 (兵庫県森林セ)、池野英利 (兵庫県立大)、山瀬敬太郎 (兵庫県森林セ)、谷川東子、大橋瑞江 (兵庫県立大)、檀浦正子 (京都大)、平野恭弘 (名古屋大). スギ、ケヤキ、クロマツにおける根系構造と引き倒しモーメントとの関係. 第129回日本森林学会大会、95:113
117. 河合将生 (三重大)、谷川東子、上杉天志 (三重大)、松尾奈緒子 (三重大)、Marc-Andre Selosse (ソルボンヌ大学)、松田陽介 (三重大). 殺菌処理が林床に生息する混合栄養植物イチヤクソウの炭素獲得に及ぼす影響. 第129回日本森林学会大会、95:183
118. 喜多晃平 (三重大)、谷川東子、松田陽介 (三重大). 中日本のスギ林で採集されたスギ細根におけるアーバスキュラー菌根菌の定着. 第129回日本森林学会大会、95:182
119. 北上雄大 (三重大)、谷川東子、松田陽介 (三重大). 中日本のスギ林の異なる土壌環境に触発されるリター層と鉱質土層の線虫群集. 第129回日本森林学会大会、95:184
120. 山口郷彬 (三重大)、谷川東子、小長谷啓介、松田陽介 (三重大). 海岸・内地クロマツ林に由来する *Cenococcum geophilum* 菌株の酵素活性. 第129回日本森林学会大会、95:183

121. 和田竜征 (名古屋大)、谷川東子、土居龍成 (名古屋大)、平野恭弘 (名古屋大). スギ細根次数形態の季節動態. 第 129 回日本森林学会大会、95:189
122. 谷川東子、宮谷紘平 (名古屋大)、土居龍成 (名古屋大)、眞家永光 (北里大学)、孫麗娟 (京都大)、藤井佐織 (アムステルダム自由大学)、松田陽介 (三重大)、溝口岳男、平野恭弘 (名古屋大). 葉と細根の分解過程で失われる炭素：室内培養による呼吸と溶脱 DOM の比. 第 129 回日本森林学会大会、95:228
123. 前田瑞貴 (横浜国大)、藤井佐織 (アムステルダム自由大)、谷川東子、田和佑脩 (大阪環農水総研)、武田博清 (同志社大)、森章 (横浜国大). 山火事直後の土壌・植生回復過程における残存根の役割. 日本生態学会第 65 回全国大会、P1-277
124. 小西雄登 (三重大)、早寄浩 (三重大)、松尾奈緒子 (三重大)、吉藤奈津子、高梨聡、藤原健、田中延亮 (東京大学)、五十嵐康記 (名古屋大学)、Chatchai Tantasirin (チャチャイ タンタシリノ・カセツアート大学). タイ北部落葉性チークの年輪成長及び同位体比に年降水量が与える影響の解明. 中部森林研究、65:43-46
125. 杉山薫 (帝京科学大学)、和田龍一 (帝京科学大学)、高梨聡、深山貴文、中野隆志 (山梨県富士山科学研究所)、望月智貴 (静岡県立大学)、谷晃 (静岡県立大学)、米村正一郎 (農研機構)、高木健太郎 (北海道大学)、松見豊 (名古屋大学)、植山雅仁 (大阪府立大学)、宮崎雄三 (北海道大学). 富士山麓森林におけるオゾンフラックスの通年観測. JpGu-AGU Joint Meeting 2017、MIS19-P09
126. WADA Ryuichi (和田龍一・帝京科学大学)、MATSUMI Yutaka (松見豊・名古屋大学)、NAKAYAMA Tomoki (中山智喜・名古屋大学)、HIYAMA Tetsuya (檜山哲哉・名古屋大学)、FUJIYOSHI Yasushi (藤吉康志・北海道大学)、KURITA Naoyuki (栗田直幸・名古屋大学)、MURAMOTO Kenichiro (村本健一郎・金沢大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、KODAMA Naomi (児玉直美・Swiss Federal Institute for Forest, Snow and Landscape Research)、TAKAHASHI Yoshiyuki (高橋善幸・国立環境研究所). Continuous measurements of stable isotopes of carbon dioxide and water vapour in an urban atmosphere: isotopic variations associated with meteorological conditions (都市大気における二酸化炭素、水蒸気同位体の連続観測：気象条件と同位体変動). Isotopes in Environmental & Health Studies、53 (6) :646-659、DOI:10.1080/10256016.2017.1348351
127. Marryanna Lion (マレーシア森林研究所)、KOSUGI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、ITO Masamichi (伊藤雅道・東南アジア研究所)、NOGUCHI Shoji (野口正二)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、KATSUYAMA Masanori (勝山正則・京都大学)、TANI Makoto (谷誠・人間科学大学)、Siti Aisah Shamsuddin (マレーシア森林研究所). Temporal variations in stable isotope in precipitation related to the rainfall pattern in a tropical rainforest in peninsular Malaysia (半島マレーシア熱帯雨林における降雨パターンに対する降雨の安定同位体の時間変動). Journal of Tropical Forest Science、29 (3) :349-362
128. 山野井克己、溝口康子、安田幸生、高梨聡、深山貴文、小南裕志、北村兼三. センサーネットワークによる森林の CO₂ 吸収量の高精度観測と長期モニタリングデータの活用. 森林総合研究所研究成果選集 (平成 29 年版)、12-13
129. 山野井克己、溝口康子、深山貴文、高梨聡、安田幸生、小南裕志、北村兼三、宮田明 (農研機構)、金元植 (農研機構)、小野圭介 (農研機構)、村山昌平 (産総研)、前田高尚 (産総研)、石戸井重之 (産総研)、三枝信子 (国環研)、高橋善幸 (国環研). センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の炭素循環変動把握の精緻化に関する研究. 環境省地球環境保全試験研究費終了成果報告書 (平成 28 年度)、:55
130. Marryanna Lion (FRIM)、KOSUGI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、NOGUCHI Shoji (野口正二)、ITO Masayuki (伊藤雅之・京都大学)、KATSUYAMA Masanori (勝山正則・京都大学)、MATSUO Naoko (松尾奈緒子・三重大)、Shamusddin Siti-Aisah (FRIM). Evapotranspiration and water source of a tropical rainforest in peninsular Malaysia (半島マレーシア熱帯雨林の蒸発散とその水の起源). Hydrological Processes、31 (24) :4338-4353、DOI:10.1002/hyp.11360

131. 和田龍一（帝京科学大学）、松見豊（名古屋大学）、高梨聡、深山貴文、谷晃（静岡県立大学）、米村正一郎（農研機構）、植山雅仁（大阪府立大学）. 富士山麓森林における二酸化窒素のフラックス算出に関する検討. 生物地球化学研究会現地セッション（2017）、16
132. 溝口康子、高梨聡、大谷義一. 富士山麓アカマツ林における CO₂ 吸収量 15 年の変化. JapanFlux10 周年記念集会ポスター発表要旨、5
133. 高梨聡、檀浦正子（京都大学）、中野隆志（山梨県富士山科学研究所）、小南裕志、深山貴文. 冷温帯アカマツの光合成・呼吸と生長フェノロジー. 日本森林学会大会学術講演集、129:P1-103
134. 上田和世（三重大学）、松尾奈緒子（三重大学）、吉藤奈津子、高梨聡、五十嵐康記（福島大学）、田中延亮（東京大学）、チャチャイ・タンタシリ（カセツアート大学）. タイ北部に生育する落葉広葉樹チークの年輪炭素同位体形成メカニズムの解明. 日本生態学会大会講演要旨集、65:P2-082
135. 太田浩斗（三重大学）、松尾奈緒子（三重大学）、吉藤奈津子、高梨聡、藤原健、田中延亮（東京大学）、Chatchai Tantasirin（カセツアート大学）. マイクロコアリング法によるタイ北部の落葉性チークにおける形成層活動の決定要因の解明. 日本生態学会大会講演要旨集、65:P2-083
136. 升屋勇人、菊地泰生（宮崎大）、市原優、相川拓也. スギ黒点病菌散布の土壌菌類群集への影響. 環境微生物系学会合同大会要旨集（2017）、P-059
137. 相川拓也、堀野真一、市原優、高橋裕史. “ニホンジカ・カモシカ識別キット” –その使い方と使用例–. 森林防疫、67:15-24
138. ANDO Yuhō（安藤裕萌・森林総研 PD）、MASUYA Hayato（升屋勇人）、AIKAWA Takuya（相川拓也）、ICHIHARA Yu（市原優）、TABATA Masanobu（田端雅進）. *Diaporthe toxicodendri* sp. nov., a causal fungus of the canker disease on *Toxicodendron vernicifluum* in Japan（日本のウルシ胴枯病菌、*Diaporthe toxicodendri* sp. nov.）. Mycosphere、8（5）:1157-1167
139. 松永孝治、平尾知士、田中憲蔵、市原優、渡辺敦史（九州大学）. 環境要因がクロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性の発現に及ぼす影響. 日本森林学会大会学術講演集、129:78
140. 服部力、高橋由紀子、市原優、太田祐子（日本大学）. PCR によるスギからの非赤枯性溝腐病菌の検出および分離試験との比較. 日本森林学会大会学術講演集、129:P2-253
141. 市原優、加藤厚、山田利博（東大演）、服部力. スギ辺材のチャアナタケモドキ感染部位に集積した抗菌物質. 日本森林学会大会学術講演集、129:M2
142. 染谷汐織（筑波大院・生命環境）、山路恵子（筑波大・生命環境系）、市原優、春間俊克（筑波大院・生命環境）、中本幸弘（筑波大院・生命環境）、松本剛史. ブナ科樹木萎凋病におけるアカガシの防御機構の解明. 日本生態学会大会講演要旨集、65:P2-095
143. 浴野泰甫（鹿児島大学大学院連合農学研究科・佐賀大学農学部）、吉賀豊司（鹿児島大学大学院連合農学研究科・佐賀大学農学部）、竹内祐子（京都大学大学院農学研究科）、市原優、神崎菜摘. 線虫のクチクラ構造と生活史特性の関係. 日本森林学会大会学術講演集、129:L7
144. 関伸一、安田雅俊. チョイワルどころじゃない？ 疑巣でのクリハラリスによる卵の捕食. 日本鳥学会大会講演要旨集（2017）、121
145. 安田雅俊、関伸一、亘悠哉、齋藤和彦、山田文雄（森林総研非常勤職員）、小高信彦. 絶滅危惧種オキナワトゲネズミ *Tokudaia muenninki* の分布の変遷. 哺乳類科学、57（2）:227-234
146. 関伸一. うるさい. 広辞苑を3倍楽しむその2（岩波書店、120 頁）、14-15

147. 関伸一. うつろいゆく島. BIRDER, 32 (3) :66-67
148. SRIWATI Rina (シェ・クアラ大学・Indonesia)、TAKEUCHI-KANEKO Yuko (竹内祐子・京都大学)、JAUHARLINA J (シェ・クアラ大学・Indonesia)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). *Aphelenchoidid nematodes* associated with two dominant *Ficus* species in Aceh, Indonesia (インドネシア、アチェ地域に優先するイチジク属植物果実内 *Aphelenchoididae* 科線虫相). *Nematology*, 19 (3) :323-331
149. DAVIES Kerrie A. (アデレード大学)、YE Weimin (ノースカロライナ農業研究所)、CENETR Barbara J. (フロリダ大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、BARTHOLOMAEUS Faerlie (アデレード大学)、HERRE E. Allen (スミソニアン熱帯研究所)、ESQUIVEL Alejandro (コスタリカ農業大学)、GIBLIN-DAVIS Robin M. (フロリダ大学). Two new species and three morphospecies of *Ficophagus* Davies & Bartholomaeus, 2015 (Nematoda: Aphelenchoididae) from *Ficus* subgenus *Pharmacosycea* (Moraceae) in Central America (中央アメリカの *Pharmacosycea* 亜属イチジクから分離された2新種を含む5種の *Ficophagus* 属線虫). *Nematology*, 19 (3) :351-374
150. DAVIES Kerrie A. (アデレード大学)、YE Weimin (ノースカロライナ農業研究所)、CENETR Barbara J. (フロリダ大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、BARTHOLOMAEUS Faerlie (アデレード大学)、HERRE E. Allen (スミソニアン熱帯研究所)、ESQUIVEL Alejandro (コスタリカ農業大学)、GIBLIN-DAVIS Robin M. (フロリダ大学). Four new species and five morphospecies of *Ficophagus* Davies & Bartholomaeus, 2015 (Nematoda: Aphelenchoididae) from *Ficus* subgenus *Urostigma* sect. *Americana* (Moraceae) in Central America (中央アメリカの *Urostigma* 亜属イチジクから分離された4新種を含む9種の *Ficophagus* 属線虫). *Nematology*, 19 (4) :427-461
151. 神崎菜摘、前原紀敏、秋庭満輝、田中克 (東大院農)、井手竜也 (科博). マツノザイセンチュウとその近縁種の耐久型幼虫形態. 森林防疫, 66:80-85
152. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、GIBLIN-DAVIS Robin M. (フロリダ大学)、GONZALEZ Rafael (フロリダ大学)、MANZOOR Mujahid (パキスタン国立農業大学). Nematodes associated with palm and sugarcane weevils in South Florida with description of *Acrostichus floridensis* n. sp. (南フロリダのゾウムシ類便乗線虫相、及び、*Acrostichus floridensis* の新種記載). *Nematology*, 19 (5) :515-531
153. IDE Tatsuya (井手竜也・国立科学博物館)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、PARRA GIRALDO Pedro Pablo (コロンビア国立熱帯農学研究所)、GIBLIN-DAVIS Robin M. (フロリダ大学). Loop-mediated isothermal amplification (LAMP) for detection of the red ring nematode, *Bursaphelenchus cocophilus* of palms (LAMP 法によるココヤシ赤輪病線虫の高感度診断法). *Nematology*, 19 (5) :559-565
154. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、GIBLIN-DAVIS Robin M. (フロリダ大学)、GONZALEZ Rafael (フロリダ大学)、WOOD Lois A. (フロリダ大学)、KAUFMAN Phillip E. (フロリダ大学). *Sudhausia floridensis* n. sp. (Diplogastridae) isolated from *Onthophagus tuberculifrons* (Scarabaeidae) from Florida, USA (フロリダの糞虫、*Onthophagus tuberculifrons* から分離された新種線虫 *Sudhausia floridensis*). *Nematology*, 19 (5) :575-586
155. ESMAEILI Mehrab (テヘラン大学)、HEYDARI Ramin (テヘラン大学)、GOLHASAN Behrouz (テヘラン大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). *Aphelenchoides eldaricus* n. sp (Nematoda: Aphelenchoididae) isolated from *Pinus eldarica* in western Iran (イラン西部の *Pinus eldarica* 枯死木から分離された新種 *Aphelenchoides eldaricus*). *Nematology*, 19 (5) :605-616
156. EKINO Taisuke (浴野泰甫・佐賀大学)、YOSHIGA Toyoshi (吉賀豊司・佐賀大学)、TAKEUCHI-KANEKO Yuko (竹内祐子・京都大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). Transmission electron microscopic observation of body cuticle structures of phoretic and parasitic stages of Parasitaphelenchinae nematodes (Parasitaphelenchinae 亜科線虫数種の外皮の透過型電子顕微鏡観察). PLoS ONE, 12:e0179465

157. KITAGAMI Yudai (北上雄大・三重大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大学). Distribution and community structure of soil nematodes in coastal Japanese pine forests were shaped by harsh environmental conditions (海岸クロマツ林の土壤線虫相と分布). *Applied Soil Ecology*, 119:91-98
158. 岡部貴美子、神崎菜摘、井手竜也 (元森林総研 PD). 名古屋港周辺におけるシロテンハナムグリの寄生率. *日本ダニ学会誌*, 26:38 (第 25 回日本ダニ学会講演要旨)
159. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). Biogeography of entomophilic nematodes: the relationship between life history and distribution range. (昆虫嗜好性線虫の生物地理：生活史と分布範囲の関係). *Abstracts for Annual Meeting of ONTA (Organization of Nematologists in Tropical America)*, 49:25
160. HERRMANN Matthias (マックスプランク研究所)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、RAGSDALE Erik J (インディアナ大学)、SOMMER Ralf (マックスプランク研究所). Redescription of four species of the genus *Pristionchus* (Nematoda, Diplogastridae) from the United States of America (アメリカ合衆国から分離された 4 種の *Pristionchus* 属線虫の再記載). *Dumerilia*, 7:97-103
161. GU Jianfeng (寧波植物防疫研究所)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、TOMALAK Marek (ポーランド植物保護研究所). Proposal of *Bursaphelenchus wuae* n. comb. and its two junior synonyms (*Bursaphelenchus wuae* の分類学的再検討). *Nematology*, 19 (7) :869-870
162. IDE Tatsuya (井手竜也・国立科学博物館)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、PARRA GIRALDO Pedro P. (コロンビア熱帯農業センター)、GIBLIN-DAVIS Robin M. (フロリダ大学). Loop-mediated isothermal amplification (LAMP) for detection of the red ring nematode, *Bursaphelenchus cocophilus*. (LAMP 法によるココヤシ赤輪病線虫の高感度診断法). *Abstracts for Annual Meeting of the Society of Nematologists*, 56:73
163. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、GIBLIN-DAVIS Robin M. (フロリダ大学)、GONZALEZ Rafael (フロリダ大学)、MANZOOR Mujahid (パキスタン国立農業大学). Nematodes associated with palm and sugarcane weevils in South Florida with notes on a new species of *Acrostichus*. (南フロリダのゾウムシ類便乗線虫相、及び、*Acrostichus* 属新種線虫に関して). *Abstracts for Annual Meeting of the Society of Nematologists*, 56:78
164. EKINO Taisuke (浴野泰甫・佐賀大学)、YOSHIGA Toyoshi (吉賀豊司・佐賀大学)、TAKEUCHI-KANEKO Yuko (竹内祐子・京都大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). Transmission electron microscopic observation of body cuticle structures of phoretic and parasitic stages of *Parasitaphelenchinae* nematodes. (*Parasitaphelenchinae* 亜科の昆虫便乗性、及び寄生性線虫角皮構造の透過電子顕微鏡観察). *Abstracts for International Meeting of Russian Society of Nematologists*, 12:20
165. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、KIONTKE Karin (ニューヨーク大学)、TANAKA Ryusei (田中龍聖・宮崎大学)、HIROOKA Yuuri (廣岡裕吏・法政大学)、SCHWARZ Anna (ドレスデン工科大学)、MULLER-REICHERT Thomas (ドレスデン工科大学)、CHAUDHURI Jyotiska (バック老化研究所)、PIRES DA SILVA Andre (ワーウィック大学). Description of two three-gendered nematode species in the new genus *Auanema* (Rhabditina) that are models for reproductive mode evolution (3 種の性別を持つ生殖生物学モデル線虫、*Auanema* 属の新属記載). *Scientific Reports*, 7:11135
166. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). *Seinura* sp. の人工培養と捕食行動の観察. *日本線虫学会大会講演要旨集*, 25:15
167. EKINO Taisuke (浴野泰甫・佐賀大学)、YOSHIGA Toyoshi (吉賀豊司・佐賀大学)、TAKEUCHI-KANEKO Yuko (竹内祐子・京都大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). *Deladenus nitobei* および *Parasitaphelenchus* sp. の角皮微細構造の性的二型と行動様式との関係. *日本線虫学会大会講演要旨集*, 25:16

168. 前原紀敏、神崎菜摘、相川拓也、中村克典. ヒゲナガカミキリのマツノザイセンチュウ保持能力. 日本線虫学会大会講演予稿集、25:25
169. 田中克（東大院農）、相川拓也、竹内祐子（京大院農）、福田健二（東大院農）、神崎菜摘. マツノザイセンチュウ分泌物の分散型 III 期誘導活性. 日本線虫学会大会講演予稿集、25:26
170. KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）. Diversity of entomophilic nematodes in relation to carrier/host insects' habitat-focusing on termite-and bark/ambrosia beetle-associated nematodes. (媒介、宿主昆虫の生息場所と嗜好性線虫の多様性：シロアリと、キクイムシの例). Abstracts for the Annual Meeting of Taiwan Entomological Society、38:47
171. KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）、LIANG Wei-Ren（中興大学）、CHIU Chun-I（中興大学）、HSUEH Yen-Ping（台湾科学院）、LI Hou-Feng（中興大学）. Nematode transmission pathways in the agricultural system of fungus-growing termite. (きのこ栽培シロアリの栽培システムへの線虫の侵入経路). Abstracts for the Annual Meeting of Taiwan Entomological Society、38:48
172. TANAKA Suguru E. (田中克・東京大学)、AIKAWA Takuya (相川拓也)、TAKEUCHI-KANEKO Yuko (竹内祐子・京都大学)、FUKUDA Kenji (福田健二・東京大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). Artificial induction of third-stage dispersal juveniles of *Bursaphelenchus xylophilus* using newly established inbred lines. (新規に確立した近交系を用いたマツノザイセンチュウ分散型第三期幼虫の人工的誘導). PLoS ONE、12:e0179465
173. 岡部貴美子、升屋隼人、神崎菜摘. Unintentional introductions of microscopic organisms associated with forest insects (微小生物の森林昆虫に伴う非意図的侵入). Biological Invasion、19:3229-3242
174. 田中克（東大院農）、相川拓也、竹内祐子（京大院農）、福田健二（東大院農）、神崎菜摘. マツ枯れの発病から蔓延への移行時の病原体線虫の戦略転換. 樹木医学会大会講演要旨集、22:19
175. YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、TAKANASHI Takuma (高梨琢磨)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、KOMATSU Masabumi (小松雅史)、LEVIA, Delphis F (Delaware Univ)、KABEYA Daisuke (壁谷大介)、TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、KITAO Mitsutoshi (北尾光俊)、ISHIDA Atsushi (石田厚・京都大学). Pine wilt disease causes cavitation around the resin canals and irrecoverable xylem conduit dysfunction (松枯れは樹脂道周辺のキャビテーションと回復不能な通水障害を引き起こす). Journal of Experimental Botany、DOI:10.1093/jxb/erx417
176. 神崎菜摘. LAMP 法を用いた外来病害虫の検出・同定. 林野、129:15
177. 秋庭満輝、神崎菜摘、大澤正嗣（山梨県森林研）. 日本におけるニセマツノザイセンチュウ 2 亜種の存在. Nematological Research、47:44-45
178. MAEHARA Noritoshi（前原紀敏）、KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）、AIKAWA Takuya（相川拓也）、NAKAMURA Katsunori（中村克典）. Effect of *Monochamus grandis* (Coleoptera: Cerambycidae) on phoretic stage formation of *Bursaphelenchus xylophilus* (Nematoda: Aphelenchoididae) and the transfer of nematodes to the beetle (マツノザイセンチュウの便乗ステージ形成に及ぼすヒゲナガカミキリの影響とマツノザイセンチュウのヒゲナガカミキリへの乗り移り). Nematology、20 (1) :43-48
179. 神崎菜摘. シロアリと線虫の関係. しろあり、169:32-41
180. 田中克（東大院農）、相川拓也、竹内祐子（京大院農）、福田健二（東大院農）、菊地泰生（宮崎大学）、神崎菜摘. マツノザイセンチュウ分散型 III 期幼虫の人為的誘導とその遺伝子発現解析. 日本森林学会大会学術講演集、129:P1-246
181. 前原紀敏、相川拓也、神崎菜摘、中村克典. *Bursaphelenchus doui* 4 アイソレイトのマツノマダラカミキリへの乗り移り. 日本森林学会大会学術講演集、129:237

182. 小山明日香（東京大学）、江川知花（農研機構）、滝久智、安田美香（元森林総研 PD）、神崎菜摘、井手竜也（国立科学博物館）、岡部貴美子. 半都市域において外来植物は在来ミツバチの花粉資源として季節依存的役割を果たす. 日本生態学会大会講演要旨集、65:B02-06
183. KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）、LIANG Wei-Ren（中興大学）、CHIU Chun-I（中興大学）、HSUEH Yen-Ping（台湾科学院）、LI Hou-Feng（中興大学）. *Acrostichus* sp. isolated from a termitophilic beetle, *Ziaelas formosanus*. (好白蟻性甲虫 *Ziaelas formosanus* より分離された線虫、*Acrostichus* sp.). 日本応用動物学会大会講演要旨集、62:195
184. 伊吾田宏正（酪農学園大学）、松浦友紀子、八代田千鶴、東谷宗光（エゾシカ協会）、アンソニー・デニコラ（White Buffalo Inc.）、鈴木正嗣（岐阜大学）. ホワイトバッファロー社における夜間シカ狙撃の訓練プログラム. 哺乳類科学、57（1）:103-109
185. 八代田千鶴. 山林におけるニホンジカ捕獲個体の行方. 哺乳類科学、57（1）:153-154
186. 八代田千鶴、古澤仁美. シカ捕獲個体の埋設深度の違いが出没動物種に及ぼす影響. 日本哺乳類学会 2017 年度大会講演要旨集、177
187. 平田滋樹（長崎県）、山端直人（兵庫県立大学）、本田剛（山梨県）、小寺祐二（宇都宮大学）、竹田努（宇都宮大学）、竹内正彦（農研機構）、八代田千鶴. 人か技術か？鳥獣被害対策の主役. 日本哺乳類学会 2017 年度大会講演要旨集、55
188. 八代田千鶴. 森林生態系保全とシカの密度管理. サントリー水科学フォーラム 2017、9
189. 小泉透、荒木良太（自然環境研究センター）、岡輝樹、相川拓也、青木正成（自然環境研究センター）、石田朗（愛知県森林・林業技術センター）、江口則和（新城森林総合センター）、釜田淳志（愛知県森林・林業技術センター）、川本朋慶（自然環境研究センター）、小林喬子（自然環境研究センター）、近藤洋史、佐藤那美（自然環境研究センター）、島田卓哉、高橋裕史、中下留美子、中田靖彦（自然環境研究センター）、永田純子、中西敬宏（マツクエスト）、松浦友紀子、三浦貴弘（自然環境研究センター）、諸澤崇裕（自然環境研究センター）、八代田千鶴. 戦後のシカ・イノシシの分布拡大. 日本哺乳類学会 2017 年度大会、100
190. 八代田千鶴、古澤仁美. シカ捕獲個体の埋設深度と季節の違いが出没動物種に及ぼす影響. 第 23 回「野生生物と社会」学会大会、73
191. 八代田千鶴. これからの森づくりとシカとの関わり. 第 23 回「野生生物と社会」学会大会、33
192. 八代田千鶴. 広葉樹林化とシカ問題. 広葉樹の利用と森林再生を考える - 中山間地での広葉樹林の取り扱いについて - : 61-62
193. 古澤仁美、八代田千鶴、横田勉（長崎県食品衛生協会食品環境検査センター）、高橋一英（長崎県食品衛生協会食品環境検査センター）. ニホンジカ埋却が土壌水の水質に及ぼす影響. 日本森林学会大会学術講演集、129:181
194. 八代田千鶴、岡輝樹、小泉透. カメラトラップを用いたシカ個体数低減効果の検証. 第 129 回日本森林学会大会、108
195. 三井香代子（滋賀県琵琶湖科学研究センター）、木村道徳（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）、八代田千鶴、安藤正規（岐阜大学）. ニホンジカの高密度生息地域における不嗜好性植物を用いた森林土壌の保全. 第 129 回日本森林学会大会、180

196. 小泉透、荒木良太（自然環境研究センター）、岡輝樹、相川拓也、青木正成（自然環境研究センター）、石田朗（愛知県森林・林業技術センター）、江口則和（新城森林総合センター）、釜田淳志（愛知県森林・林業技術センター）、川本朋慶（自然環境研究センター）、小林喬子（自然環境研究センター）、近藤洋史、佐藤那美（自然環境研究センター）、島田卓哉、高橋裕史、中下留美子、中田靖彦（自然環境研究センター）、永田純子、中西敬宏（マツクレスト）、松浦友紀子、三浦貴弘（自然環境研究センター）、諸澤崇裕（自然環境研究センター）、八代田千鶴. 拡大するシカ－戦後 70 年の分布変化－. 第 129 回日本森林学会大会、107
197. 大谷栄徳（和歌山県農林水産部）、山下由美子（和歌山県林業試験場）、栗生剛（和歌山県農林水産部）、衣浦晴生、長谷川絵里. ウバメガシにおけるトリホリン乳剤の樹幹注入によるナラ枯れの予防. 和歌山県農林水産試験研究機関研究報告、5:107-113
198. TOKORO Masahiko（所雅彦）、SAITOH Shoichi（齊藤正一・山形県）、OKADA Mitsuhiro（岡田充弘・長野県）、KINUURA Haruo（衣浦晴生）、OHASHI Akihiro（大橋章博・岐阜県）、OOTANI Eitoku（大谷栄徳・和歌山県）、INO Masaaki（猪野正明・サンケイ化学）、TSURUTA Hideto（鶴田英人・サンケイ化学）. Test trial for controlling Japanese oak wilt using living trees or mass accumulated oak logs with the aggregation pheromone and kiromone of the Ambrosia Beetle, of *Platypus quercivorus* (Coleoptera, *Platypodidae*). (カシノナガキクイムシの集合フェロモンとカイロモンを用いたおとり木法及び大量集積おとり丸太法による日本のナラ枯れ防除の試み). 第 33 回国際化学生態学会 (ISCE) 第 9 回アジア太平洋化学生態学会 (APACE) 2017 年合同京都大会講演要旨集 2017、P125
199. 衣浦晴生、山本優一（大阪府立環境農林水産総合研究所）、城塚可奈子（大阪府立環境農林水産総合研究所）、所雅彦、加賀谷悦子. サクラ等の外来害虫クビアカツヤカミキリの成虫ルアートラップによる誘引試験. 樹木医学会第 22 回大会講演要旨集、60
200. 衣浦晴生、法眼利幸（和歌山県林業試験場）、竹内隆介（和歌山県林業試験場）. 薬剤樹幹注入したヒノキにおけるスギノアカネトラカミキリの生育Ⅲ. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集、290 (P2-219)
201. 濱口京子、後藤秀章. PCR-RFLP 法によるカシノナガキクイムシの系統識別. 第 129 回日本森林学会大会講演要旨集、p.239
202. 齊藤和彦. 明治 39 年勅令第 191 号による柚山払下過程. 亜熱帯森林・林業研究会講演要旨集（平成 29 年度）、29:5
203. 安部哲人、工藤孝美（沖縄県在住）、齊藤和彦. 森林施業がやんばるの森林植物群集に与える影響. 第 73 回日本森林学会九州支部会研究発表講演要旨集、37
204. 齊藤和彦. 第二次大戦末期の国頭村字奥における旧日本陸軍の薪炭生産. 奥むらの戦世の記録－やんばるの沖縄戦（榕樹書林、337 頁）、pp.322-336
205. 阿部真、齊藤和彦、中西晃（琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター）、小高信彦、高嶋敦史（琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター）. 絶滅危惧種オキナワセッコクの生育環境：施業履歴と森林構造. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集、p280 (P2-178)
206. 田中邦宏、齊藤和彦、田中真哉、近口貞介、植山真司. 間伐方法の異なるスギ人工林の直径成長について－ナสบ伐り、上層間伐、普通間伐の比較から－. 応用森林学会大会研究発表要旨集、38:35
207. 田中邦宏、齊藤和彦、近口貞介、植山真司. 滝谷スギ人工林収獲試験地（兵庫県宍粟市波賀町）定期調査報告－間伐方法の違いによる成長の違いについて－. 森林総合研究所関西支所年報、58:39-41
208. 田中邦宏、齊藤和彦、田中真哉、近口貞介、植山真司. スギ人工林における間伐方法の違いによる肥大成長の違い. 日本森林学会大会学術講演集、129:117

209. 小谷英司、田中真哉. 高密度と低密度での航空機 LiDAR 計測のコスト分析. 東北森林科学会第 22 回大会講演要旨、22:22
210. 中島徹 (東京大学)、中島譲 (東京大学)、広嶋卓也 (東京大学)、龍原哲 (東京大学)、白石則彦 (東京大学)、光田靖 (宮崎大学)、鹿又秀聡、北原文章、田中真哉、松本光朗、岡勝 (鹿児島大学). 多様な時空間スケールに対応可能な森林計画策定支援システムの検討. 木材利用システム研究、3:23-26
211. 田中真哉. 衛星データ解析におけるサポートベクターマシンの利用: 森林タイプ図作成の事例. 森林計画学会平成 29 年度夏季セミナー講演集 (森林計画分野における AI 技術適用の可能性)、5
212. 高橋興明、田中真哉. UAV 画像の SfM-MVS 処理による三次元点群データを用いたスギ林の単木樹冠抽出. 第 73 回九州森林学会大会、73:206
213. 田中真哉. 航空機 LiDAR による立木本数の推定. 森林総合研究所関西支所研究情報、126:2-3
214. 高橋興明、田中真哉. 小型のドローンによる森林の空中写真撮影の留意点. 森林総合研究所九州支所年報、29:21
215. 田中真哉. 広葉樹の利用を進めるための資源量把握. 広葉樹の利用と再生を考えるー中山間地における広葉樹林の取り扱いについてー (森林総合研究所関西支所、89 頁)、46-47
216. 小谷英司、佐野真琴 (佐野真)、細田和男、西園朋広、田中真哉、古田朝子 (日林協). 低コストな森林資源把握技術の開発. H29 岩手県林業技術センター 森林総合研究所東北支所 林木育種センター東北育種場 合同成果報告会、発表番号 07
217. 田中真哉、山下直子、奥田史郎、諏訪鍊平. 航空機 LiDAR データを用いた広葉樹の資源量推定に関する検討. 日本森林学会大会講演要旨集、129:247
218. 光田靖 (宮崎大学)、北原文章、田中真哉. 四国における林分最適化によるスギおよびヒノキの植栽適地比較. 第 129 回日本森林学会大会学術講演集、D8
219. 原田真樹、井道裕史、小川敬多、山下香菜、藤原健、香川聡、田中真哉、西園朋広、高橋正義、細田和男. カラマツ人工林における立木のヤング係数の非破壊推定. 第 68 回日本木材学会大会研究発表要旨集 (CD-ROM)、68:D14-04-1515
220. Lijuan Sun (京都大学)、ATAKA Mioko (安宅未央子・学振 PD)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、YOSHIMURA Kenichi (吉村謙一・山形大). Relationship between fine-root exudation and respiration of two *Quercus* species in a Japanese temperate forest (日本の暖温帯林における根浸出物と細根呼吸の関係). *Tree Physiology*、37 (8) :1011-1020
221. 安宅未央子 (学振 PD)、小南裕志、吉村謙一 (山形大)、SUN Lijuan (京大). 自動チャンバーを用いた樹木細根呼吸速度の連続測定～時間変動とその制御要因～. 日本農業気象学会 75 周年記念大会講演要旨集、PJ-31
222. 梅村光俊、谷川東子. モウソウチクのリターからの元素溶脱と洗浄方法の検討. 第 65 回日本生態学会大会講演要旨集、P2-319